

Cisco Business 110アンマネージドスイッチについて

目的

この記事では、Cisco Business 110アンマネージドシリーズスイッチについて紹介し、一部の機能を強調表示し、それらの機能をネットワークに提供する方法について説明します。

該当するデバイス

- Cisco Business 110アンマネージドスイッチ

Cisco Business 110アンマネージドスイッチ

ホームオフィスやスモールビジネスを運用している場合、アンマネージドスイッチは、ネットワーク内で良好な通信を容易にする手頃な価格のシンプルなツールになります。

アンマネージドスイッチは、ネットワークを拡張するための追加イーサネットポートを備えており、信頼性の高いギガビットイーサネットケーブル接続でより多くのデバイスを接続できます。

Cisco Business 110アンマネージドスイッチは、堅牢なネットワーク接続と信頼性を提供します。このスイッチでは、Quality of Service(QoS)、ループ検出、ケーブル診断などの高度な機能が自動的に有効になります。

各スイッチポートは独立して自動的に最適な速度に設定され、半二重モードと全二重モードのどちらで動作するかを決定します。

CBS110-8PP-D、CBS110-16PP、およびCBS110-24PPモデルは、合計ポートの半分はPower over Ethernet(PoE)ポートを備えています。これらのポートは、ワイヤレスアクセスポイント、IP電話、ビデオ監視カメラなどの一部のデバイスに電力を供給します。どのポートがPoE対応になっているかは、デバイス面の黄色い帯域で確認できます。



製品機能

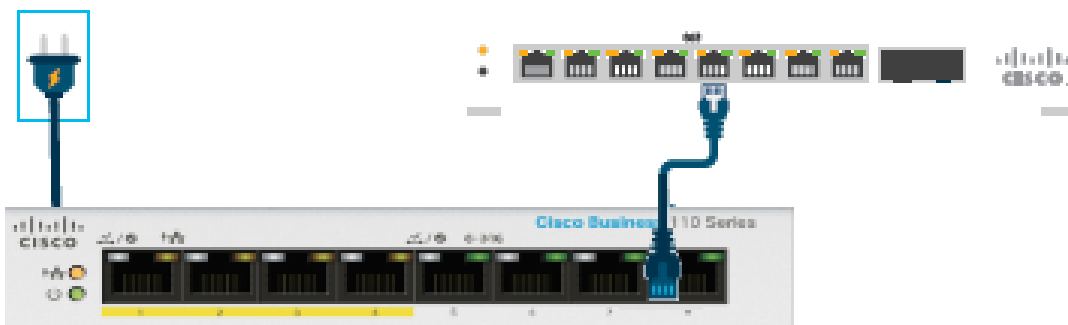
次の図は、Cisco Business 110シリーズスイッチの主な機能を示しています。ポートの数やスイッチにPower over Ethernet(PoE)が搭載されている場合は、モデルが若干異なる場合があります。

1. 電源 LED
2. 最大PoE LED (PoEモデル用)
3. LINK/ACT LED
4. PoE LED (PoEモデル用)
5. ギガビット速度LED
6. PoEポート (PoEモデル用)



スイッチの接続

アンマネージドスイッチを既存のネットワークに簡単に接続できます。スイッチが箱から出されたら、電源コードをスイッチに接続し、次にコンセントに接続します。イーサネットケーブルの一方の端 (RJ45と呼ばれるコネクタ) を任意のスイッチポートに接続し、もう一方の端をルータまたはネットワーク上の別のスイッチに接続します。この接続により、スイッチに接続するデバイスがDHCPサーバからアドレスを取得し、ネットワークとインターネットの他のデバイスと通信できるようになります。



この時点から、スイッチポートをイーサネットケーブルでデバイスに接続できます。

結論

他の設定は必要ありません。ネットワークの拡張とコミュニケーションの改善は、シンプルです。